

こうかい ひこうかい べつ  
公開・非公開の別

■ 公開 □ 部分公開  
ひこうかい  
□ 非公開

## だい かい は ま ま つ し が い こ く じ ん し み ん き ょ う せ い し ん ぎ かい かい ぎ ろ く 第6回浜松市外国人市民共生審議会会議録

1 開催日時 令和6年11月20日(水) 午後6時00分から午後7時30分

2 開催場所 浜松市役所 本館8階 第3委員会室

3 出席状況

委員 アルバレズ アントニ

川越 レニ

グエン ティ タン トウイ

クマラプラタマ

シム キュマン

妹尾 圭持

只尾 ジェニファー

丹野 清人

トリゴエ デイゼ マミ

(敬称略・五十音順)

事務局 国際課 課長 松井 由和

国際課 課長補佐 古橋 広樹

国際課 一般職員 山村 果穂

4 傍聴者 1人(一般:0人、報道:1人)

5 議事内容

中間とりまとめ報告(案)について

6 会議録作成者 国際課 山村 果穂

7 記録の方法 発言者の要点記録

録音の有無 (有) 無

8 会議記録

1 開会・挨拶  
《国際課長挨拶》

2 中間とりまとめ報告の提出について  
《事務局から説明》

- ・意見の内容を予算や取組みに反映するため、最終的な市長への提言提出前に、企画調整部長に中間報告書を提出する。中間報告書は、丹野委員長から提出いただく予定である。
- ・第5回審議会までに話し合った内容を事務局が案としてまとめたため、本日の審議会では案に追加したいことなど意見を聞き、修正して提出する。

《委員了承》

3 中間とりまとめ報告（案）について

テーマ1 防災・危機管理体制の強化に関する事項

《事務局から説明》

- ・第1回から第3回の審議会で議論を深めてきた内容をまとめた。
- ・取り組み1として「外国人市民が確実に緊急情報を受け取ることができる体制の強化」、取り組み2として「外国人市民が支援する側として活躍するための体制づくり」を説明した。

《委員から追加の意見なし》

テーマ2 外国人の子育て世代への支援、子どもの健やかな成長のための支援に関する事項

《事務局から説明》

- ・第4回から第5回前半の審議会で議論した内容をまとめた。
- ・取り組み1として「外国人の子どもとその保護者の居場所の提供」、取り組み2として「外国人の子育て世帯を対象とした行政情報の翻訳、通訳体制の整備」を説明した。

丹野委員長：

さらに付け足した方がよいことがあれば、ご意見をお願いいたします。

川越委員：

私も子どもが産まれた後に保健師さんが来てくれましたが、そのときは日本語でした。日本人の夫が制度について教えてくれたので制度も利用できましたが、外国人同士の夫婦で、制度を知らないまま使えないということもあると思います。使うかはその家庭次第ですが、SNSや広報はままつなどで制度についてよく周知する必要はあると思います。

アルバレス委員：

私は子育ての最中ですが、全部日本語でやりとりしています。まだ外国人の子どもの出生数はそれほど多くないので、可能であれば、外国人の親の母語で、市役所や浜松国際交流協会（HICE）の通訳職員から一度連絡があると、自分から声を上げるよりも不安を話しやすいですし、支援があるという安心感を得られると思います。母子手帳を渡すときや、子どもの出生届を出すときなどの節目で連絡があるとよいです。支援メニューはたくさんあってもすべてを知ることは難しいので、そのような連絡の機会に伝えるのが効果的だと思います。子育て支援広場の外国人支援にもつながれるとよいです。

シム委員：

外国人学習支援センター（U-ToC）の「子育てのための日本語教室」の学習者を募集するときは、これまでU-ToCで学習したことがある人の中で、結婚したばかりの人や、結婚の準備をしている人、小さな子どもがいる人に電話で連絡をして案内をしました。もちろんFacebookやホームページでも周知しましたが、まだU-ToCに通ったことがない人への情報発信が難しいと感じました。

アルバレス委員：

広報はままつ外国語版はまだ発行されていますか。私の家には届いてないようです。

事務局：

広報はままつ外国語版は発行していますが、自治会の希望に応じて配布しています。無料ですが、通常よりも量が増えて配布する手間もかかってしまうので、外国人市民が少ない地域の自治会は特に希望していないのかもしれませんが。

アルバレス委員：

広報はままつを自治会が配っていたことを知りませんでした。外国人が少ない地域の自治会では、外国語版があることもあまり知られていないのかもしれませんが。

グエン委員：

日本語版の広報はままつは、字が多すぎて読むのが難しいです。

クマラプラタマ委員：

外国人市民個人は、希望してもらえらるなら、もらいたいという人が多いと思います。紙媒体は費用が高いと思いますが、特に高齢者は紙のほうが見やすいです。

事務局：

自治会長も代わることがあるので、十分に周知されるよう所管課にも共有します。一方で、市としては、紙媒体全体にイえることですが、情報発信の方法をWe bに移行する傾向があります。We bでも毎月内容を更新しているので、紙での配布について周知するのに加えて、We bでも見られることの周知を併せてやってきたいと思っています。

丹野委員長：

外国人市民が転入して増えていても、地域の人にはわからないかもしれないので、特に増えている地域には個別に案内してもよいと思います。子育て世帯への情報発信という観点から考えると若い世代なので、Webでの情報発信でもよいと思いますが、どこにアクセスすれば情報があるのか周知するためには、紙媒体も上手く使っているとよいと思います。

妹尾委員：

日本人から見ても、紙とWebの2つのルートから情報発信できるとよいと思います。

丹野委員長：

子育てに関する情報は、保育園を通じて伝わる仕組みなどはあると思いますが、保育園に子どもを預けていない人や、来日したばかりの人への情報発信の課題が残りますね。

事務局：

転入者には、住民登録窓口で「ウェルカムパック」という行政情報をまとめた冊子を配付しています。ただ、その人にとって必要な情報をどのようにしたら確実に届けることができるのかという点は、課題として認識しています。紙媒体に概要とQRコードを示して、詳しい情報を載せたWebサイトに案内する形式が主流になりつつありますが、紙とWebを併用しながら、上手く入口でしっかりとお伝えできるようにしていきます。

シム委員：

紙媒体の情報は、協働センターに比較的多く用意されていると思います。私は協働センターのチラシから地域の活動をすることもあるので、情報を得る場所として協働センターについて案内するのでもよいと思いました。

丹野委員長：

「ウェルカムパック」で協働センターについて案内してもよいですね。

只尾委員：

「ウェルカムパック」をもらうときは、引っ越しの荷ほどきで慌ただしくしているので、紛失してしまったという人から問い合わせもらうことがあります。分量が多すぎてすべて読まないという人もいます。

アルバRez委員：

市役所の手続きには、30分から1時間程度時間がかかるので、その待ち時間に運転免許の更新の手続きのときのように動画を流して情報発信するのはどうでしょうか。外国語の吹替や字幕を選べるとよいです。

事務局：

手続きの待ち時間に動画を見てももらう取り組みは、以前実施していたこともありますので、もう1度検討することも必要かもしれません。「ウェルカムパック」を含めて、紙媒体でお渡しする

情報の内容がしっかりと伝わるよう工夫していきたいと思います。

グエン委員：

浜松市の公式LINEの情報をよく見ますが、現状日本語のみの配信だと思います。ベトナム人の友人からわからないときに相談を受けることがあります。LINEが1番使う連絡手段だと思うので、多言語化されたら便利だと思います。

川越委員：

多言語もよいと思いますが、日本で長く暮らしていくためには日本語を覚える必要があるので、やさしい日本語を使うのもよいと思います。日本人が「ハサミの法則」（はっきり言う、最後まで言う、短く言う）を意識できるとよいです。

アルバレス委員：

子育てについては、特に初めての人は前提知識が少なく不安な気持ちもあるので、自分の言語で情報を得られたり、相談できたりする安心感もあるとよいと思いました。日本とペルーとの間の子育ての文化の違いに驚くことがあるので、そのような情報を同じ国・言語の人から教えてもらえると嬉しいです。

丹野委員長：

すべてを多言語化するのには費用もかかるので、子育てに関する重要な情報は多言語化しながら、その次の段階ではやさしい日本語で伝えるような方法がよさそうですね。また、母語で相談できる場所も引き続き用意されているとよいですね。

妹尾委員：

静岡子ども救急電話相談（#8000番）という、子どもの病気やけがで困ったときに電話で相談できる制度がありますが、これが外国語に対応しているかご存知ですか。

グエン委員：

日本に来て1年経たない頃に電話したことがあります。そのときは日本語でした。日本語ができないと、症状や既往症を説明することがとても難しいです。通訳がいるとありがたいです。

アルバレス委員：

私も、日本語の痛みの表現（チクチク、ヒリヒリ等）がまだわかりません。医療に関する通訳は有料なら依頼できると思います。

只尾委員：

高熱の子どもを病院に連れて行ったフィリピン人から「病院に行ったのに外に追い出された」と相談されたことがあります。高熱なので、コロナウイルスなどの感染を広げないようにするためだと理解できますが、日本語での説明が上手く伝わらなかったようです。

トリゴエ委員：

病院によっては通訳がいますね。ポルトガル語の通訳がいる病院には、ブラジル人が多く通っているようです。

事務局：

報告書案では「多言語翻訳」としていたところを、「やさしい日本語」を含んだ意見に修正したいと思います。

《委員了承》

### テーマ3 多様性を生かした文化の創造・地域の活性化に関する事項

《事務局から説明》

・第5回後半で議論した内容を参考に報告書案を作成したが、十分に議論できていないため特に意見をお聞きしたい。

・委員の意見から、本読みボランティアやサッカークラブのコーチなどの地域の活動を通して人とつながり、それが活躍につながってきたという共通点が見られた。また、インターナショナルフェスティバルのようなイベントやスポーツが有効だという意見があがった。

・取り組み1として「外国人市民による事業の運営に対する支援」、取り組み2として「イベントやボランティア活動など外国人市民の自己表現の場の提供」を説明した。

丹野委員長：

川越委員がしていた小学校での読み聞かせボランティアなど、本当によい活動だと思います。それが図書館や学童などいろいろな場所で行われていくと、外国人も日本人も活動に入っているとと思います。報告案で少し足りないと感じたのは、「外国人の」参画にだけ言及している点です。日本人、外国人関係なく地域の活動に参画することが、多様性を生かしたまちづくりを初めて可能にすると思います。外国人だけを対象にするのではなく、むしろ日本人こそ参画するということ強く押し出したほうがよいと感じました。一緒にやっつながることで、地域の活性化にもつながっていくはずです。

川越委員：

本のページをめくる音が好きなので、それで子どもたちが何か学んでくれたら嬉しいです。これからの季節なら、クリスマスの本を読んだりするパーティーを開くのも楽しそうですね。10月に開催された「やさしい日本語落語」の講演も楽しかったです。

シム委員：

浜松まつりに参加する外国人はあまり多くないと思います。日本人も外国人も関係なく多くの人参画することがインターカルチュラルだと思うので、一緒にやろうとする雰囲気があるとよいです。

アルバレズ委員：

地域のお祭りには、宗教的な理由や、熱心にやっている地域の人の輪に、文化的背景などをよくわからないまま参加しにくいという理由から、参加しない外国人が多いのではないかと思います。

川越委員：

インドネシア友好協会（HAMAS）で浜松まつりの風揚げ会場に行ったことがあります。そのときは、前会長がミーゴレンなどのインドネシア料理を用意して、日本人とインドネシア人の交流の場をつくってくれました。そのように巻き込んでくれる日本人がいたらとてもありがたいです。法被を持っていませんでしたが、インドネシアの服で参加してもよいといわれたので、それで行きました。日本人もインドネシアの服に関心をもって来て、交流を深められたと思います。

クマラプラタマ委員：

私は浜松まつりで初子のお祝いをしました。誘ってもらえれば嬉しいですし、1回参加すれば雰囲気もわかるので、参加するようになる外国人もいるかもしれません。まずは誘ってみるのが大切だと思います。

アルバレス委員：

宗教が絡まない中立的なイベントだと誰もが参加しやすいと思います。一般市民を対象にした「特技披露会」のようなイベントが企画できないか考えているところです。出演者は、日本人と外国人の人数が同じだとよいと考えています。というのも、ペルーの独立記念日を祝うイベントなどが市内で開催されていて、盛り上がりはいるのですが、参加者がペルー人ばかりなのを残念に思っています。日本人にも参加してもらえるような、相互的なアプローチができるようにしていきたいです。浜松国際交流協会（HICE）主催のグローバルフェアは、日本人の参加者も多く理想的だと思います。

トリゴエ委員：

ブラジルのイベントも同じようにブラジル人の参加者ばかりです。

只尾委員：

グローバルフェアは、様々な国・地域の外国人にお店や展示などをしてもらっていますが、日本人の外国語スピーチコンテストや、着物の着つけの出し物などもあります。

川越委員：

グローバルフェアはクリエート浜松の建物全体を使って開催しているので、自分の持ち場にいると他の階のお店や展示を見に行くのが難しいです。新川モールなどに会場を変えてみるのもよいと思います。グローバルフェアは規模が大きくて同じようなイベントを開催するのは難しいので、少し小さな規模で同じようなイベントができるとよいです。

丹野委員長：

東京の代々木公園で開催されていたブラジルフェスタには、3～4万人の来場者がありました。

そのイベントの参加者は日本人が圧倒的に多いです。やり方を工夫すれば、その国のものを見せながら、日本人にも来てもらえるイベントにできると思います。

アルバレス委員：

ペルーのクリスマス会をイベントとして開催したことがありますが、パネットーネとホットチョコレートが好評でした。ペルーでは、貧しい子どもたちのためにクリスマスパーティーを開く文化があります。子どもたちのダンス大会や借り物競走などをします。日本でも同じようなイベントができればと考えています。浜松市の共催で開催された Challenge to インクルーシブ in 浜松2024 も、スポーツや食を通じて多様な人が交流できるイベントでした。私は当日ペルー料理の店を出店しましたが、日本人の参加者からもとても好評でよかったです。

事務局：

人が集まるイベントにするには、みんなが共通で楽しめるものがあるとよいですね。スポーツや食もそうですし、季節を楽しむイベント、例えば、クリスマスパーティーや、ハロウィンに合わせて子どもたちに仮装を披露してもらいイベントなどには、日本人・外国人関係なく、親子で参加してもらいやすいかもしれません。イベントの開催のために申請できる市の助成金もありますし、市の後援があれば、使用料が減免されたり、優先的に予約できたりする施設もあります。

シム委員：

申請から報告書の作成まで大変でしたが、PTA のイベントで助成を受けたことがあります。

丹野委員長：

次回の審議会では、引き続きテーマ3について話し合いができればと思いますがいかがですか。

《委員了承》

5 閉会